



スポット「若狭路の王の舞」刊行
第28回風花随筆文学賞
施設のご紹介「福井県教育博物館」
令和6年度高等学校総合文化祭
ふくい伝統行事「前川神社の春祭り」
越前若狭の文化活動

『若狭路の王の舞』

中世の芸能を伝える祭り』の刊行

若狭路文化研究所（多仁照廣所長）は、げんでんふれあい福井財団の助成を受けて、若狭路（福井県嶺南地域）の神社の祭りとして伝承されてきた民俗芸能の「王の舞」についてとりまとめた『若狭路の王の舞——中世の芸能を伝える祭り——』を、若狭路文化叢書第20集として、令和7年3月に刊行しました（A4横長、86頁、発売元岩田書院）。

若狭路で「オノマイ」とか「オノマイさん」と呼ばれる王の舞は、獅子舞や田楽などとともに、平安末期から鎌倉期にかけて、都の祭礼をにぎわしていた芸能です。800年以上も前の芸能が今なお上演され続けている若狭路の王の舞やその祭りは、生きた芸能史の史料として、全国的にみても非常に貴重な無形民俗文化財として注目されてきました。しかし、少子高齢化や過疎化等により、その伝承は年々難しくなっています。

本書では、まず、全日本写真連盟福井県本部会員の吉田俊雄さんが撮影した美しい写真で54頁のグラビアページを構成し、若狭路の王の舞とその祭りの様子を生き生きと紹介します。そして、若狭路文化研究所副所長の垣東敏博さんが、若狭路の王の舞とその祭りの特色や歴史等について解説を加えています。又、10頁にわたる詳細な参考文献一覧も収録され、本書は、王の舞の見学・撮影・調査・研究等のガイドブックとして活用できるものとなっています。

本書の刊行は、若狭路の王の舞やその祭りの価値や魅力について広く理解されるためだけでなく、これからの保存・継承を考えるうえでも役立つ、貴重な資料となるでしょう。

写真・吉田俊雄
解説・垣東敏博



若狭路文化研究所
協賛：(公財)げんでんふれあい福井財団

若狭路文化叢書 第二集
若狭路の王の舞
中世の芸能を伝える祭り

若狭路の王の舞 中世の芸能を伝える祭り

表紙の説明『前川神社の春祭り』（若狭町）

若狭町南前川に鎮座する前川神社は、大同元年（806年）に大津市坂本の日吉山王宮より勧請された「サンノウサン」とも呼ばれる古社。毎年4月14日に行われる、春季例大祭は、王の舞や獅子舞などの奉納はありませんが、主当（主当屋）・



脇当（脇当屋）などの古い当屋制（宮座制度）を今に伝えています。ミコリカキ・ユリワ・大御幣などの役割があり、「オサルサン」とも呼ばれる「ショット」役の二人の少年は民俗学上憑坐を意味する「ヒトツモノ」を表し、古代から中世に及ぶ奥ゆかしい祭礼の一面がうかがわれます。（写真撮影：吉田俊雄さん）

目次 58

- スポット「若狭路の王の舞」刊行 2
- 第28回風花随筆文学賞 3～4
- 施設のご紹介「福井県教育博物館」..... 5
- 令和6年度高等学校総合文化祭 6～7
- ふくいの伝統行事「前川神社の春祭り」 8～9
- 越前若狭の文化活動 10
- 情報ファイル 11



公益財団法人げんでんふれあい福井財団は、福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的に、県民の皆様との絆を大切にしたい広報誌を目指します。

第28回 風花随筆文学賞

かざはな

第28回風花随筆文学賞（同賞実行委員会主催）の授賞式が、令和7年3月9日（日）に福井県立図書館多目的ホールで行われました。この文学賞は、福井県出身の芥川賞作家津村節子氏の随筆「風花の街から」にちなんで平成9年度に創設された賞で、毎年、国内外から多くの作品が寄せられています。当財団では、文化・芸術を愛する県民風土を高める顕彰事業として特別協賛し、「げんでんふれあい福井財団賞」を贈呈しています。今回は、一般の部で渡辺 誠二さん、高校生の部で笹野 京愛さんのお二人が受賞されました。

一般の部（応募作品1283編）

- ▽《最優秀賞》木村留奈（京都府）「六十年後にまた会う日まで」
- ▽《優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞》渡辺 誠二（福岡県）「機窓から」
- ▽《優秀賞・福井新聞社賞》高尾光秀（福岡県）「祖父の詫び状」
- ▽《優秀賞・福井仁愛学園賞》若菜友里香（東京都）「喫茶店の扉」
- ▽《優秀賞・U30賞》該当なし
- ▽《優秀賞・実行委員会賞》横山恵津美（愛知県）「家族の時間」

高校生の部（応募作品3138編）

- ▽《最優秀賞》竹内唯紗（福井県）「書く」
- ▽《優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞》笹野 京愛（福井県）「笑うように、歌うように。」

《げんでんふれあい福井財団賞》

一般の部

「機窓から」



渡辺 誠二 さん
（福岡県）

高校生の部

「笑うように、歌うように。」



笹野 京愛 さん
（仁愛女子高等学校）

- ▽《奨励賞》
- 金森爽、大久保光薫、山田絢香、松村郁弥、川崎麻尋、坂下美和、田中壬風、辻本璃和、川端花和、中山優希、鈴木実弥（福井県）
- 中村紗綾（北海道）
- 金鎮河、本中野彰、原園歩未、井川ステラ、鈴木志門（東京都）
- 櫛部晋伝、田川琳子（大阪府）
- 友成彩由花（徳島県）
- ▽《学校賞》
- 仁愛女子高等学校（福井県）
- 藤島高等学校（福井県）

※入賞作品は、「風花随筆文学賞」HP（福井県ふるさと文学館HP内）に掲載されています。
又、作品集をご希望の方は、実行委員会事務局（福井県ふるさと文学館内 ☎0776-33-8866）までお問い合わせ下さい。



受賞者、来賓、審査委員及び実行委員の皆さん

高校生の部

優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞

「笑うように、歌うように。」

笹野 京愛さん

(福井県 仁愛女子高等学校)

桜の花が散り始め、春の暖かい陽が
さす頃私は生まれた。笑うように、歌
うように声を上げて生まれた。あの日
に私は父と母と出会った。運命とも言
える出会いだ。出会った日のことは覚
えてないけれど。

あれから十五年。今日は四月十四日。
十五回目の誕生日だ。でも普通の平日。
朝、母に「おめでとう」と言われても
私は無視だった。

気がつけば私は母に「わかってるっ
てば」、「知ってるし」と強くあたるよ
うになった。そして明らかに「ありが
と」の数も減った。成績が落ちて母
に声をかけられた時も、「わかってる、
邪魔しないで」と言い、応援してくれ
ているのに素直に受け止められなかつ
た。でも母の応援がないと勉強も部活
も頑張れない。学校で困ったことが
あって思わず涙がこぼれた時、終始態
度が悪い私にしっかりと向き合ってくれ

た。朝の支度もご飯も洗濯も母がいな
い、なんて考えられないし、母がいな
いと生きられないくせに。

母が私を産んでくれたから今の生活
がある。嬉しい、悲しい、辛い、楽し
い経験ができるのも母が産んでくれた
から。十月十日私を大切に守り、十五
年前のあの日私を命懸けで産んでくれ
た母。だから言いたい、「産んでくれ
てありがとう」と。でも言えない。照
れくさい。

でも今日言わないと後悔する。ちょ
うど十五年前の今日、私は生まれた。
だから伝える。

緊張で母の元に行く足が震えた。心
臓の音が身体中でこだました。

「ねえママ、産んでくれてありがと
う。」

とぼつり。するとにっこりして

「生まれてきてくれてありがとう
う。」と母。

新しい風が私と母の横を通りすぎた。
そんな優しい母の言葉に涙が出てきた。
この日を境に私の誕生日は少し変わっ
た。

「生まれてきてくれてありがとう」
と言われるとは思ってもいなかった。

やっぱり母は優しい。私はあんなに強
く母にあたっているのに。いつでも応
援してくれる母は私にとって憧れだ。

私は今、助産師を目指している。な
かなか自分の将来の夢など見つけれ
なかった私に夢ができた。それはやは
り「産んでくれてありがとう」の魔法

のおかげだ。私は生命の誕生に携わり、
今度は「生まれてきてくれてありがと
う」と伝えたい。限らない世界の入り
口で生まれてきてくれた赤ちゃんに。

母が命懸けで私を産んでくれたあの
日。感謝を伝え合う誕生日は私にとっ
てとても特別だ。自分が生まれた日の
ことは思い出したくても決して思い出

すことはできない。少し寂しいがやっ
ぱり母と父に出会えた喜びが大きい。
そして今年の誕生日も私を産んでく
れた母に感謝を伝えた。少し照れくさ
かったけどあの日の母の痛みを想像し
て、

「ねえママ、産んでくれてありがと
う」
と。そして笑顔で

「生まれてきてくれてありがとう」
と母。二人の時間はゆっくりと流れた。
終始私は恥ずかしかったけれど、二人
の目は潤んでいた。

桜の花が散り始め、春の暖かい陽が
さす頃私は生まれた。笑うように、歌
うように声を上げて生まれた。あの日
に私は母と父と出会った。運命とも言
える出会いをした。出会った日のこと
は覚えてないけれど。

施設の
ご紹介

福井県教育博物館

坂井市

県内の文化的施設をご紹介します。

福井県教育博物館は、旧春江工業高校の校舎を利用し、平成29（2017）年4月15日に開館した、全国でも数少ない、教育に特化した博物館です。館内では、福井県の教育の歴史や、福井ゆかりの教育者、教科書の歴史などを様々な資料や映像とともに展示、紹介しています。資料を直接手に取って見ることが出来るハンズオン展示を可能な限り導入し、「誰もが親しみやすく、感動できる博物館」を目指しています。常設展示では、「教育ふくいの歴史」「福井ゆかりの教育者」「教科書の歴史」「なつかしの学び舎」の4つのテーマで資料を展示しています。



正面玄関「二体の二宮金次郎像」

「教育ふくいの歴史」では、幕末から戦後までの本県の教育の歴史を主に県内の学校に残っていた様々な資料を使って紹介しています。明治期に三国町にあった龍翔小学校の木造模型も展示しています。



展示室A「教育ふくいの歴史」

「福井ゆかりの教育者」では、イチヨウの精子を発見し、世界に認められた平瀬作五郎をはじめ、橋本左内、グリフィス、橋本進吉、藤野厳九郎など、福井県ゆかりの教育の先人を貴重な資料とともに紹介しています。

「教科書の歴史」では、明治初期から現代までの代表的な教科書を展示し、学校で使用した教科書を手にとって閲

覧することが可能です。

「なつかしの学び舎」では、昭和30年代の教室を再現し、ジオラマや当時の写真、教材・教具などを紹介し、懐かしい学校の思い出に触れ、愛着を深められる展示になっています。さらに、南部陽一郎や大森房吉など、福井が生んだ科学者を紹介する「科学の小径」。明治から現在まで約1万6000冊の教科書を配架し、調べたい教科書を手に取りみる事が可能な「教科書閲覧室」もご覧いただけます。



展示室D「なつかしの学び舎」

また、「特別展示室」では、調査研究した成果を展示する企画展・特別展を年3〜4回開催しています。今年4

月から6月にかけては、朝のドラマで話題となった「やなせたかし」の生涯や掲載されている教科書、直筆のイラストなどの資料を紹介する特集展示を開催し、多くの来館者が訪れました。6月からは特別展「休み時間と遊びの空間」、9月からは企画展「教科書で見る昭和100年」を開催中です。

教育博物館には、学校の児童生徒、家族や個人の方だけでなく、公民館や地域団体、福祉施設、企業、大学関係など、県内外から多くの人が訪れます。来館者は母校の変遷を調べたり、学んだ教科書を手に取り学校生活を懐かしんだりしている姿も見られます。大型連休や学校の長期休業中には参加型のアートワークショップや映画上映会も行っています。揚げパンなど懐かしい学校給食の販売、コカリナコンサート、企画展・特別展関連講演会など、多様なイベントや講座を開催し、多くの方々に楽しんでいただいています。

当館は、令和8年に開館10年を迎えます。この10年間に約3万点の資料を収集保存し、調査研究を深めてきました。また、その成果を発表する企画展などの開催は40回以上に及びます。「来るたびに新しい発見がある博物館」。そのような魅力ある博物館に、ぜひご来館ください。

（福井県教育博物館

館長 奥守俊彦）

令和6年度第35回福井県高等学校総合文化祭

令和6年度第35回福井県高等学校総合文化祭（げんでんふれあい福井財団協賛）が、令和6年6月から令和7年2月にかけて県内各地で開催されました。

総勢約7500人の生徒が、18部門でコンクールや各種大会に参加し、日頃の練習及び研究の成果を披露しました。本大会での入賞を経て北信越大会や全国大会に出場し、本県の文化活動のレベルの高さが示されました。

尚、令和6年度は、福井県が近畿高等学校総合文化祭の開催地となったことから、各部門で優秀な成績を収めた生徒は、上位大会へ出場しました。

国語部会

令和6年度福井県創作コンクールが、9月10日（火）に鯖江高校で開催されました。随想、小説・文芸評論、詩、短歌、俳句の計5部門に290名の生徒が作品を応募しました。

19名の審査員による同日の審査の結果、随想の部では92作品から11作品が、小説・文芸評論の部では24作品から9作品が、詩の部では55作品から9作品が、短歌の部では45作品から9作品が、俳句の部では74作品から9作品が入賞作品に選ばれました。2年連続の受賞となった生徒もいるなど、どの作品にも思いがこもったものばかりでした。各部門の入賞者氏名並びに最優秀賞及び優秀賞の入賞作品を掲載した作品

集が作製され、入賞者や関係高校に配付されました。



日本音楽部会

音楽フェスティバル日本音楽部会が、11月9日（土）に鯖江市文化センターで開催されました。

9校（藤島、三国、羽水、高志、福井、啓新、福井商業、仁愛、武生）の計91名の生徒たちの夢の演奏が、コンクール形式で行われました。

中川佳代子さん、野津香子さんお二人の模範演奏の後、審査結果が発表され、藤島高校が金賞、啓新高校及び福井商業高校が銀賞、福井高校が銅賞を受賞しました。

金賞を受賞した藤島高校は、令和7

年7月に開催された全国高等学校総合文化祭に出場しました。



農業部会

福井県学校農業クラブ連盟第74回年次大会が、7月12日（金）に福井市のユーアイふくいで開催され、意見発表会、プロジェクト発表会が行われました。

3校（福井農林、坂井、若狭東）から計150名の生徒が参加しました。

意見発表会では、自分の将来の夢や目標が現在の取組みとともに語られました。プロジェクト発表会では、今ま

での研究の成果を分かりやすくまとめ、次の課題を見つけ、継続していく様子が発表されました。それぞれの上位入賞者は、北信越ブロック大会に出場しました。



工業部会

令和6年度福井県工業学科課題研究発表会の審査会が、令和7年2月6日（木）に開催されました。当初は対面での発表会を予定していましたが、大雪のためオンラインでの審査となりました。

6校（坂井、奥越明成、科学技術、敦賀工業、若狭東、武生商工）の工業科の生徒の発表が行われ、坂井高校の「坂井VRプロジェクト」メタバース

上でオープンスクール」が最優秀賞を、武生商工高校が優秀賞、科学技術高校が優良賞を受賞しました。



学校図書館部会

第70回青少年読書感想文全国コンクール福井県審査が、10月25日（金）に武生商工高校で開催されました。県内22校から54名が県審査に進み、最優秀賞には、課題部門で武生高校、自由部門で武生東高校の生徒が選ばれました。

又、優秀賞には、課題部門で金津高校及び藤島高校各1名が、自由部門で8名が選ばれ、優良賞には、課題部門で藤島高校及び鯖江高校各1名が、自由部門で12名が選ばれました。優秀作品集を掲載した作品集が作製され、参加各校に配付されました。



演劇部会

第78回福井県高等学校演劇祭が、9月11日（水）～13日（金）に鯖江市文化センターで開催されました。11日午後からの生徒実行委員会に続いてリ



ハーサルが行われ、上演は12日及び13日の2日間に実施されました。
8校（羽水、藤島、仁愛、武生、北陸、金津、啓新、福井商）すべてが生徒創作の舞台で、計85名の生徒による、舞台を効果的に使った熱演が披露されました。
劇団ドリームチョップの井口代表ら3名の審査員による審査の結果、金津高校が金賞を、藤島高校及び啓新高校が銀賞を受賞しました。12月に開催された第77回中部日本高校演劇大会に出場した金津高校は、奨励賞を受賞しました。

囲碁部会

第44回福井県高等学校秋季囲碁大会が、10月27日（日）に藤島高校で開催されました。

3校（藤島、福井南、羽水）から計



10名の生徒が参加し、男子団体、女子団体、個人戦A級、個人戦B級に分かれて対局しました。
男子団体、女子団体及び個人戦B級では藤島高校、個人戦A級では福井南高校の生徒が優勝しました。

郷土芸能部会

第62回音楽フェスティバルが、11月9日（土）に福井農林高校で開催されました。

越前町の太鼓団体OTA・KO座明神の上坂優さん及び西宮大智さんを審査員にお迎えし、3校（勝山、北陸、福井農林）の郷土芸能部員計55名が、課題曲及び自由曲の2曲の演奏を披露しました。

福井農林高校は、令和7年7月に開催された全国高等学校総合文化祭に出場しました。



ふくいの

伝統行事

福井県指定無形民俗文化財

前川神社の春祭り

若狭町

1 「祭りは若狭」

「祭りは若狭 若狭は三方郡の春祭り」という言葉は、名古屋で祭り同好会を主宰していた医師で民俗学者の故・田中義廣さんが唱えたキャッチコピーとされています。一般のひとにはそれほど知られていないかもしれませんが、民俗芸能や民俗学の研究者にとってはよく膾炙された惹句として、時には話題になります。4月8日の若狭町気山字宮本に鎮座する宇波西神社の祭礼をかわきりに、旧三方郡のあちこちで春季例大祭が華やかに開催されます。それほど狭隘な若狭東部には春祭りが集中しており、全国的にもきわめて珍しい祭礼といえるでしょう。

2 前川神社の沿革とあらまし

さて、旧三方郡の春祭りのなかでも、特に異彩を放っているのは、国道27号線沿いの若狭町南前川字宮の本に鎮座する前川神社の春季例祭神事で、当社には宇波西神社や多由比神社、弥美神社、織田神社のような王の舞や獅子舞は奉納されず、当社特有の古風な例祭神事が行われます。

当社は『神道大系神社編』に「志二

云、山王ノ祠在北前川村」とあるように、集落の中ほどの国道27号から長い参道を登った雲谷山の西麓に鎮座しており、鳥居の入り口には明治43年に山口県新湊沖で潜水艇が殉難した佐久間勉艇長の遺徳をしのぶ佐久間記念館があり貴重な資料が展示されています。祭神は大己貴命、金山彦命等とされ、ほかに境内社の八幡神社や各字に祀られていた金毘羅神社、春日神社、愛宕神社、田中神社、山神社、稻荷神社を合祀。椎の木やタブノキ、杉などの巨木に囲まれて、奥ゆかしい神域を醸し出し、氏子たちの深い敬神の念がうかがわれます。『若州管内社寺由緒記』の「南前川村」には「日吉山王新宮十禅師八大同元年坂本^ち奉勧請 則北前川村兵部伊賀南前川村宮ノ下権正此者共勧請□□鎌倉殿^ち御寄進状其外地頭殿之御寄進数多有之」云々とあり、また「北前川村」には「日吉山□十禅師 大同元年坂本^ち勧請之由 神田八從鎌倉殿御寄進状其外国司地頭方之御寄進状数多有之候」とほぼ同様の記述が見られ、平安初期の大同元年（806年）の勧請の一端がわかります。なお、「野々間区有文書」には南前川の山竹五郎助、梅木長七、宮下権之正らによって近江国下坂本の日吉山王宮より勧請されたと『三方町史』に付記されています。小浜藩の国学者で

ある伴信友の「神社私考」に「神階記に正五位前河明神此れ也と云えり」とあり、明治41年8月7日には合祀が図られ両前川区の共同の氏神へと発展していく様子がわかります。ちなみに祭神の金山彦命は、岐阜県不破郡垂井町にある南宮大社の祭神で古代の製鉄神として知られています。すなわち、当地にも鉄鋼の鉱山があったのかもわかりません。近くの敦賀市や美浜町の金山には製鉄神が祀られています。どこかに「たたら製鉄」の痕跡が残っているのでしょうか。

3 前川神社の例祭神事

大変奥ゆかしい由緒や古代からの歴史を秘めて、当社の春季例大祭は毎年4月14日に古式にのっとり、北前川・南前川（谷内・野々間）の三区合同で開催されます。宮守や宮総代、往時の

宮座制を反映した当屋制によって主当、協当と呼ばれる二人の当屋の采配のもとに春祭りの神事は粛々と進められます。令和七年の今年も例年通り野々間は4月11日、谷内・北前川は12日に各地区の主当、協当が美浜町久々子の海岸で禊の垢離^{カスガヒ}かきの神事から祭りが開始され、翌日の12日には各区の当屋現在集落センターに集合して、座敷

に神像の軸を掲げ、神主（闇見神社）を迎えて幣裁ちの儀式、盃の儀式があり、野々間8本、谷内4本、北前川12本の御幣（クシ）を作る「講神事」が行われます。

用意万端を整えて、例祭日の4月14日の午前九時に、まずは社前に神輿を出し、役員全員がそろって、闇見神社の神主により神事が行われそれぞれ無事を祈って拝礼しいったん散会。その後、正午に各地区の関係者が講宿のセンターに集合し、銘々盃を酌み交わして、午後1時過ぎにまず野々間から村立ちをはじめ、順次15分おきに昔通りの参拝順位を守り北前川、谷内の順に続きます。村立ちに際しての祭礼の順序は、神幣（ヘイサシ）を先頭に御供箱、シヨット（シヨント、男の幼児、人身御供の名残とされるミコリカキ（幼女）、ユリワ（当屋の妻）、大御幣（当屋）と整然と並んで進行。なお、ユリワが持つ桶の中には神饌の蒸飯、種々の海山の幸を納めています。祭礼記録の古文書によるとかつてはふだん食用にならない野老^{ノコ}も入っており、飢饉の救荒食や漢方薬としても珍重されました。

定刻に参道のなかほどの御幣参集場所^{ミコリカキ}に三座の行列が内揃い、互いに挨拶を交わした後、野々間、北前川、谷内の順に行列を整え、勇ましく「エーオ、エーオ」の掛け声を交わしながら参道の苔むした石段を登り、社叢に囲まれた境内奥の社殿へと巡幸。三集落から御幣やお神酒、鏡餅などが神前にうやうやしく供えられ、神主によって春季例大祭の神事が滞りなくおそかに斎行されます。なお、社殿の縁の左右に正座する「シヨット」は日吉山王にち

なみ「オサルサン」とも呼ばれますが、この少年の役は敦賀市刀根の氣比神社の「正殿」(シヨウドン)や美浜町宮代の弥美神社の春祭りにも「幣差し」として登場し、民俗学上は「ヒトツモノ」とされています。『日本民俗事典』(弘文堂)には「祭礼に出る特別な扮装の児童で、おそらく神霊の憑坐よけましから発展したものと考えられる」とされ、歴史上古くは宇治離宮八幡の祭礼を叙述した『中右記』長承2年(1133)5月条に「一物」が通つたとあり、以後『春日神社若宮祭礼記』『醍醐雑事記』『法隆寺別当次第』『多聞院日記』などに現れている(萩原龍夫)との説明があります。いかに当社の祭礼が古式にのっとったものであるかがよくわかるのではありませんか。ちなみに、当社の祭礼は昭和49年(1974)に「前川神社の例祭神事」(管理者 前川神社例祭神事保存会)として福井県の無形民俗文化財に指定されています。ぜひ、皆さんも来春は一度祭り見学においでください。

(日本地名研究所

所長 金田久璋)

参考文献

- ・大塚民俗学会編『日本民俗事典』弘文堂、1972
- ・谷川健一編『日本の神々 神社と聖地 8 北陸』白水社、2000
- ・『三方町史』三方町、1990



□マコモの莫産の上にすえた御幣をもつ谷内のヘイサシ



○野々間のオハケ



□谷内のオハケ



○北前川のオハケ(神霊の依代)



○馬場揃いの儀、大御幣とマコモの莫産



○北前川の巡行

写真撮影…○は吉田俊雄さん、□は南前川区提供



○社殿左に北前川、右に谷内のショットとヘイサシ、ユリワの女性が昇殿する



□谷内のヘイサシとショットの幼女

越前若狭の文化活動

県内の様々な文化団体等の活動に助成・協賛を行いました。

次世代音楽家応援コンサート

次世代音楽家応援コンサートが、令和7年3月23日（日）に敦賀市民文化センターで開催されました。この催しは、敦賀から音楽大学などに進学し、各種コンクールで優秀な成績を収めた学生や生徒に地元で演奏する機会を提供することを目的に、敦賀市民文化センターと音楽愛好団体「クラシック敦賀」が企画したもので、今回で3回目の開催でした。

将来の活躍が有望視される中学生や、すでに若手演奏家として注目され、オーケストラとの共演経験がある学生などが一堂に会する演奏会は、出演者それぞれが刺激し合い、交流の幅を大きく広げる機会にもなり、地域の音楽文化の振興に大変有意義なものとなりました。会場を訪れた方からは、出演学生の各々のレベルが年々高まっており、彼らの成長ぶりをみるのが楽しみ、という声が寄せられました。



沓見御田植祭

敦賀市沓見に伝わる県指定無形民俗文化財の沓見御田植祭が、令和7年5月5日（月）に信濃貴彦神社（男宮）、久豆弥神社（女宮）、沓見区内で行われました。

この祭りは、平安時代がはじまりとされる歴史のある行事です。

伝統衣装をまとった各神社の行列が「ヤーホー、ハイヤー」と氣勢を上げながら、二つの神社の間を行き来し、子どもたちの王の舞、獅子舞の奉納や、諸戸衆による農具のエブリと苗に見立てた杉の葉を使って田植の様子を表現した芸能を奉納して五穀豊穡を祈願します。最後には馬場と呼ばれる場所で、互いの祭神が宿る御幣を勢いよく何度も合わせて、祭りを終えました。

御幣の紙垂は、玄関先などに飾ると無病息災や豊作の御利益があるとされており、地元の住民たちは、手に手に家に持ち帰っていました。



福井県日本舞踊連盟 創立20周年記念「舞踊公演」

福井県日本舞踊連盟の創立20周年記念「舞踊公演」が、令和7年5月25日（日）に鯖江市文化センターで開催されました。県内の各流派が一堂に会するこの企画は、会員減少やコロナ禍の影響で各団体の公演開催が難しくなる中、あらためて日本舞踊の魅力や奥深さを味わってもらおうと7年振りに開催されたものです。

常磐津「廓八景」や長唄「藤娘」「俄獅子」など、8社中の舞踊家が、かつらや本衣装を身にまとい、美しく華やかな舞台12演目を披露しました。又、北陸新幹線県内開業を記念して作られた「組曲福井」が、県内の邦楽家の演奏に合わせ発表されました。モダンダンスとの共演など、和と洋が融合した創作舞踊に、来場者からは盛んな拍手が送られていました。



令和7年度 助成事業・協賛事業の日程

今後、開催される財団の助成事業・協賛事業などをご紹介します。

期日等は変更される場合がありますので、入場・参加を希望される場合は事前にご確認下さい。各事業に関するお問合せは、当財団事務局（0770-21-0291）まで。

事業名／主催者名	期 日	場 所
第44回福井県市町文協選抜美術展 鯖江市文化協議会	9月12日(金)～14日(日)	鯖江市嚮陽会館
第77回煎抹各流大茶会 福井県茶道連盟 和光会	9月27日(土)～28日(日)	福井新聞社(福井市)
第34回福井県市町文協選抜芸能祭 あわら市文化協議会	9月28日(日)	グランディア芳泉(あわら市)
笑福亭喬若のなるほど落語12ヶ月 若狭小浜ちりとて落語の会	毎月第1土曜日 (日曜日開催の月があります)	はまかぜプラザ(小浜市)
第53回福井県川柳大会 番傘ばんば川柳社	10月8日(水)	アオッサ(福井市)
第18回邦楽ふれあいフェスティバル 邦楽ふれあいフェス実行委員会	10月18日(土)	ハーモニーホールふくい(福井市)
日本の秋IN古民家 Tミュージックファクトリー	10月19日(日) 令和8年3月22日(日)	仮屋橋三郎太夫家住宅(若狭町)
福井国際フェスティバル2025 (公財)福井県国際交流協会	10月19日(日)	福井県国際交流会館(福井市)
REINAN国際交流のつどい2025 (公財)福井県国際交流協会	10月26日(日)	プラザ萬象(敦賀市)
パレア若狭開館20周年記念 今川裕代 オーケストラコンサート パレア若狭	10月26日(日)	パレア若狭(若狭町)
創立20周年記念合唱団清ら第15回定期演奏会 合唱団 清ら	11月9日(日)	大野市文化会館
スペインからの便り クリスマスガラコンサート Tミュージックファクトリー	11月16日(日) 12月21日(日)	パレア若狭(若狭町)
第19回げんでんふるさと大賞2025写真コンテスト入賞作品展 (公財)げんでんふれあい福井財団	11月16日(日)～30(日)	げんでんふれあいギャラリー(敦賀市)
第16回ファミリーのためのコンサート2025 越前町民混声合唱団	11月30日(日)	越前町多目的ホール (カメラホール)
鯖江人形浄瑠璃「近松座」旗揚げ20周年記念公演 鯖江人形浄瑠璃「近松座」	12月7日(日)	鯖江市文化センター
第10回永平寺町みんなの第九コンサート みんなの合唱団コールフロイデ	12月14日(日)	福井県立大学 福井キャンパス (永平寺町)
第32回若狭小浜第九演奏会 小浜第九実行委員会	12月14日(日)	小浜市文化会館
第42回ふるさとの花をいける水仙いけ花展 福井県華道協会	令和8年 1月23日(金)～26日(月)	福井新聞社(福井市)
越のルビーアーティストバンク登録オーディション (公財)福井県文化振興事業団	1月25日(日)	ハーモニーホールふくい(福井市)
冬のマーチングバンド・バトンふれあいフェスティバル ビートセッション2026 冬のマーチング・バトンふれあいフェスティバル ビートセッション実行委員会	2月8日(日)	アオッサ(福井市)
パレア若狭ミュージカル メモリアルコンサート パレア若狭	3月1日(日)	パレア若狭(若狭町)
第4回次世代音楽家応援コンサート 敦賀市民文化センター	3月22日(日)	敦賀市民文化センター



げんでんふれあい講演会 入場者募集

入場
無料

俳優で気象予報士の石原良純さんをお招きし、講演会を開催します。
入場は無料です。たくさんの方々のお申込みをお待ちしています。

- 日時 令和7年10月18日(土) 14:00開始
- 講師 石原良純さん(俳優、気象予報士)
- 演題 石原良純、大いに語る!! 石原家の家族愛&自然への想い
- 会場 きらめきみなと館小ホール(敦賀市桜町)
- 対象 福井県内に在住又は学校・勤務先が福井県内であること
- 定員 230名
- お申込み方法 往復はがきの往信裏面に「①お名前、②郵便番号、③ご住所、④お電話番号、⑤講演会を何でお知りになったのか(チラシの場合は入手先)」を、返信表面に「郵便番号、ご住所、お名前」を記載して、下記の申込み先までお送り下さい。
お申し込みは、往復はがき1枚につき1名と致します。往復はがき以外でのお申込みは、無効と致しますので、ご了承下さい。

- 申込期限 令和7年10月3日(金)【必着】

※応募者数が230名に達した場合は、受付期間中でも締め切らせて頂きます。

お申込み先
お問合せ先

公益財団法人 げんでんふれあい福井財団
〒914-0051 敦賀市本町2-9-16 ☎0770-21-0291 (平日9:00～17:00)



▲詳細はコチラ

第19回げんでんふるさと大賞2025写真コンテスト 作品募集 出品無料

- 部 門 一般の部、高校生の部の2部門

●応募資格

- ①福井県内に在住又は学校・勤務先が福井県内であること。
- ②写真の専門家(プロカメラマン)ではないこと。
- ③中学生以下の方はご応募頂けません。

●作品の規格等

カラー・モノクロで四ツ切、又は四ツ切ワイドの単写真

応募点数は、お一人3点以下とします。

その他詳細は、当財団HP又は応募チラシをご覧ください。

- 締 切 令和7年10月3日(金)【必着】

●賞 金 等

ふるさと大賞1点(一般20万円)、ふるさと賞1点(高校生5万円)、優秀賞(一般2点10万円、高校生2点3万円)、協賛社賞3点(一般 記念品)、入選(一般15点、高校生 若干 記念品)

※高校生は図書カードとなります。

●応募方法

所定の応募用紙を作品の裏に貼り、以下の①②のいずれかにご提出下さい。応募用紙は、以下の①②に配置しているチラシの裏面にあります。当財団HPからもダウンロードできます。

●応募先

- ①公益財団法人 げんでんふれあい福井財団
- ②福井県カメラ商組合店、県内フジカラー取扱店

- 審査員 写真家 水谷内健次さん他7名

●主催・お問合せ先

公益財団法人 げんでんふれあい福井財団
〒914-0051 敦賀市本町2-9-16
☎0770-21-0291 (平日9:00～17:00)



▲詳細はコチラ